

就活日誌

<流れ>

- 2006年 12月： ISFJ 日本学生政策会議参加。大学院進学（宇大国際学研究課国際社会専攻博士前期過程）を考え始める。
- 2007年 1月： 大学院進学をほぼ決意。一応複数就職サイトには登録。
- 2月： 社会勉強のため、興味のある欧州のサイクルスポーツ用品を扱う輸入代理店・商社2社の説明会に参加（これに出なければ応募できなかった）。
- 3月： 上記輸入代理店 A 社1次、2次選考、B 社1次、2次選考。
- 4月： A 社最終選考→合格、B 社最終選考→不合格。中村先生とも話し合い、進学を完全に決意し、A 社を辞退。
入試対策のため、中村先生が担当する英語講読の授業を進められ、受講。これがそのまま受験対策になる。
- 5月： 市との共同研究、卒論を進めつつ、英語、専門科目（国際社会に関する内容。関連する書籍等をちびちびと読む）を勉強する。
過去問を入手し、解き始める。
- 6・7・8月： 同じように活動。
- 9月： 入試。英語1時間、専門科目2時間、面接10分程度。面接では事前に提出する研究計画（大学院において研究しようとする内容をA4 1ページ程度でまとめたもの）について質問攻めされる。
- 10月：合格。卒論・共同研究進める。

<アドバイス>

受けた会社はかなり少なかったが、自分がとても興味があり、その分野に関する知識がかなりあったため、面接がスムーズに行った。

自分の興味のある分野の企業であれば、希望する理由や、将来の展望等について、とてもしっかりとした答えを返すことができると思う。なので、まずは自分の一番興味関心のある分野の企業を優先し、そのほかの色々な企業を受けると効率がいいように思う。

1次選考でよく出される筆記形式の試験は、基本的な知識を問うものが多いが、侮れない。中学程度の勉強をさらっとしなおし、またSPI等が課される場合はしっかりと練習が必要だ。

進学する人は・・・いないと思うが、早めに進路を考え、過去問入手をすぐにして練習し、研究計画について早いうちから構想を練っておくことが必要。後は勉強あるのみ。

私のケースはあまり参考にならないかもしれないが、1,2,3,4,5月あたりはとにかく人生の分かれ目になるほど重要な時期だと思うので、必死に、集中して就職活動に励んだほうが良いと思う。卒論に本格的に取り組むのは内定が出てからで心配は無い（7月までに決まっていなかった場合さすがにやばいが）。

あまり深く悩まず、突き進んだほうが良いように思う。これで精神的に参ってしまい、うつ病や各種精神的病にかかる学生が多いと聞く。

以上、頑張ってください。